

## 高岡市万葉歴史館論集 目録

- 1 『水辺の万葉集』 笠間書院 平成10年3月 (品切れ)
- 2 『伝承の万葉集』 笠間書院 平成11年3月 (残り僅か)  
歴史館直販¥2600 定価¥2940  
佐伯 有清「雄略天皇と万葉巻頭歌」  
大久間喜一郎「磐姫皇后歌群の素顔」  
川崎 晃「大津皇子とその周辺」  
針原 孝之「柿本人麻呂の死と石見」  
原田 貞義「筑紫歌壇における伝承—旅人と憶良・その「伝説」との向き合い方—」  
多田 一臣「水江浦島子を詠める歌」  
関 隆 司「虫麻呂の伝承したもの—菟原処女墓歌から—」  
内田 賢徳「綺譚の女たち—巻十六有由縁—」  
三浦 佑之「竹取翁と九人の娘子ら—「竹取翁歌」と『竹取物語』—」  
中葉 博文「ハクイ(羽咋)の地名由来考」  
新谷 秀夫「『新しき年の初め』の家持—「伝誦」という視点—」
- 3 『天象の万葉集』 笠間書院 平成12年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940  
大久間喜一郎「『天象の万葉集』序論」  
古橋 信孝「天と空」  
菅野 雅雄「万葉歌の太陽」  
小野 寛「万葉の月」  
浅見 徹「星と星に関する物語」  
犬飼 公之「雲のイメージ—神話的な発想—」  
浅野 則子「姿なき使者—風—」  
金子 裕之「雨に煙る佐保山」  
新谷 秀夫「霞の衣を着た<佐保姫>—『萬葉集』享受と歌枕の再生—」  
関 隆 司「立つ霧の思い」  
田中 夏陽子「雪歌にみる家持の心象世界」  
川崎 晃「天と日の周辺—治天下・阿每多利思比孤・日本—」
- 4 『時の万葉集』 笠間書院 平成13年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940  
大久間喜一郎「『時の万葉集』序説」  
身崎 壽「年・月・日—万葉集の時間—」

阿蘇 瑞枝「万葉びとの春・秋」  
新谷 秀夫「冬の『月を詠む』一家持『雪月梅花を詠む歌』覚書」  
井手 至「万葉びとの心性から見た昼夜のけじめ—一日の意識をめぐって—」  
田中 夏陽子「家持の朝—『朝に日に』『朝な朝な』の表現を中心に—」  
関 隆 司「夜をうたうこと」  
糸川 光樹「万葉集の『過去』『現在』『未来』」  
山口 佳紀「『万葉集』における時の表現—動詞基本形の用法を中心に—」  
小島 瓊禮「万葉びとの通過儀礼—イザナキの命とイザナミの命の神話から—」  
木下 正史「古代の水時計と時刻制」  
川崎 晃「万葉びとと時刻—奈良時代時刻制度の諸相—」

5 『音の万葉集』笠間書院 平成14年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

大久間喜一郎「万葉歌と歌謡と」  
稲岡 耕二「〈声の歌〉・〈文字の歌〉」  
青木 生子「人にかかわる『音』世界」  
田中 夏陽子「『萬葉集』の獣歌にみる音の表現—鹿の歌を中心として—」  
内藤 明「『万葉集』に鳴く鳥」  
近藤 信義「万葉からの視線—桓武天皇歌のホトトギス—」  
関 隆 司「自然の音」  
新谷 秀夫「響かぬ楽の音—家持がうたわなかった『音』—」  
山口 博「東北アジアの弓の音」  
鶴 久「上代語における『音』に関しての私見」  
荻 美津夫「古代の音楽制度と『万葉集』」  
川崎 晃「古代日本の王言について—オホミコト・ミコト・ミコトノリ—」

6 『越の万葉集』笠間書院 平成15年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

小野 寛「総論—『越中万葉の世界』について—」  
中川 幸廣「天平十八年越中守家持」  
関 隆 司「家持の天平十九年」  
鉄野 昌弘「越中諸郡巡行の歌をめぐって—家持の天平二十年—」  
吉村 誠「天平二十一年の家持」  
市瀬 雅之「天平勝宝二年の家持—歌作りと歌巻の編纂—」  
針原 孝之「越の万葉—天平勝宝三年—」  
田中 夏陽子「中臣宅守狭野弟上娘子贈答歌群—歌物語・歌語り論の行方—」  
新谷 秀夫「国境の池主、家持の国境—《越中萬葉》の「越前」—」  
大久間喜一郎「万葉歌に見る『越国』の素描」

藤井 一二「大伴池主・家持と『深見村』－万葉集と加茂遺跡木簡を中心に－」  
川崎 晃「古代北陸の宗教的諸相－越中を中心として－」

7 『色の万葉集』笠間書院 平成16年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

大久間喜一郎「色の万葉集序説」  
志水 義夫「赤色の裙の乙女」  
田中 夏陽子「青き蓋(きぬがさ)－上代の色、青と緑の位相－」  
上野 誠「万葉びとの洗濯－白を希求した男と女－」  
関 隆 司「『ぬばたま』と『みなのおた』」  
阿蘇 瑞枝「万葉集の動詞『てる』・『ひかる』」  
伊原 昭「色と『万葉集』のかかわり」  
山口 博「白と青のメッセージ」  
新谷 秀夫「『にはひ』を嗅いだ家持」  
尾形 充彦「正倉院の染め色」  
百橋 明穂「古代美術の色－万葉時代の－」  
川崎 晃「長屋王家の色彩誌－万葉歌と長屋王家木簡に見える色彩語について－」

8 『無名の万葉集』笠間書院 平成17年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

大久間喜一郎「作者未詳歌の世界－後代歌への継承序説－」  
関 隆 司「巻七羈旅作の類景歌」  
田中 夏陽子「名もなき人々の雪の歌－巻十を中心とする作者未詳歌について－」  
柳 澤 朗「万葉集の『愛』の歌について－巻十一・十二作者未詳歌の場合－」  
遠藤 宏「作者未詳の宮廷歌－巻十三の世界－」  
佐藤 信「古代地方豪族の漢字文化受容と文学」  
東城 敏毅「防人歌の世界－その作者層と詠歌の場－」  
橋本 達雄「無名歌人たちの珠玉の小品－男性編－」  
小野 寛「万葉集の無名女流歌人－その珠玉の小品－」  
針原 孝之「越中万葉にみえる無名歌人たち」  
新谷 秀夫「歌わない萬葉びとたち」  
川崎 晃「万葉の時代の日本と渤海」

9 『道の万葉集』笠間書院 平成18年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

小野 寛「総論－万葉集の『道』－」  
佐藤 隆「越への道〈近江を含めて〉について」  
影山 尚之「東海道をゆく万葉の旅人」

森 斌「瀬戸内の道—遣新羅使の歌を中心に—」  
田中 夏陽子「持統女帝の旅路—行幸と行幸歌—」  
高松 寿夫「聖武天皇の行幸と和歌」  
渡瀬 昌忠「天皇・皇子の葬送の道—天智・高市の殯宮挽歌を中心に—」  
関 隆 司「旅の歌人 高市黒人の道」  
新谷 秀夫「配流された萬葉びと—記録者としての家持—」  
藏 中 進「大唐への道—山上憶良『在大唐時、憶本郷作歌』の周辺—」  
木 下 良「歴史地理的に見た『道の万葉集』」  
川 崎 晃「鑑真入京の道」

10『女人の万葉集』笠間書院 平成19年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

鈴木 日出男「女歌の形成—坂上郎女を中心に—」  
塚本 澄子「挽歌をよむ女」  
平舘 英子「天武天皇の皇女たち—四人の皇女を中心に—」  
小野 寛「佐保大伴家の女たち」  
関 隆 司「東歌に女性の歌が多いこと」  
田中 夏陽子「防人歌と女性の表現」  
坂本 信幸「伝説歌の女性」  
新谷 秀夫「《娘子》の変容—『うたう』から『うたわれる』へ—」  
平野 由紀子「『万葉』の母」  
浅野 則子「女歌の表現—坂上郎女を中心に—」  
瀧浪 貞子「古代女帝論」  
川 崎 晃「藤原夫人と内親郡主」

11『恋の万葉集』笠間書院 平成20年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

小野 寛「万葉集の『恋』」  
身崎 壽「石見相聞歌の恋」  
大浦 誠士「万葉恋歌の誕生—人麻呂歌集の文学史的意義—」  
池田 三枝子「坂上郎女の恋—巻八自然詠の恋情表現—」  
新谷 秀夫「宛名のない《恋歌》—家持の『恋』の実態をめぐって—」  
川上 富吉「国禁(禁断)の恋」  
駒木 敏「構成的歌群のなかの恋」  
関 隆 司「旅の恋歌」  
清水 明美「恋歌の表現—人目と人言・夢・死と色—」  
岡部 隆志「歌垣をめぐって」  
川 崎 晃「忘れ草—忘れ草と中国古典—」

12『四季の万葉集』笠間書院 平成21年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

小野 寛「万葉集の季節歌」

菊川 恵三「うぐいす歌への視点」

田中 夏陽子「万葉びとと桜—その心象世界—」

奥村 和美「越中のほととぎすは家持に何と鳴いたか」

菊地 義裕「万葉の「藤」—越中における「藤波」詠を中心に—」

上野 誠「みやびの鹿とひなびの鹿」

鈴木 武晴「千葉の彩」

西 一夫「萬葉後期の狩りの歌—家持の「詠二白大鷹—歌」をめぐって—」

新谷 秀夫「冬ごもり今は春べと咲くやこの花—『萬葉集』の『冬の梅』から考える—」

関 隆司「正月の歌」

岡田 芳朗「『万葉集』時代の暦」

川崎 晃「大地裂ける夏から稔りの秋へ—国司の雨乞いと稲種をめぐる二題—」

13『生の万葉集』笠間書院 平成22年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

小野 寛「生—万葉集に歌われる『生』」

新谷 秀夫「『老』の歌として享受された家持歌

-『類聚古集』・『古葉略類聚抄』から考える-

大久保 廣行「病苦との対峙—旅人・憶良の場合—」

平舘 英子「白露の消かも死なまし」

田中 夏陽子「万葉集における『よろこびの歌』」

飯泉 健司「〈怒り〉と〈恨み〉—歌における感情の表出—」

神野志 隆光「私的領域を組み込み、感情を組織して成り立つ世界

—泣血哀慟歌から考える—」

垣見 修司「『たのし』と『楽』」

関 隆司「家持にとっての七十歳—賀寿の視点から」

西澤 一光「『万葉集』と『無常』」

藤原 茂樹「海山川のあそび—海人 鶺鴒の歌—」

川崎 晃「生きる—万葉びとの医療（医術と呪禁）—」

14『風土の万葉集』笠間書院 平成23年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

小野 寛「万葉集の『風土』と大和の風土」

村田 右富実「神亀二年難波行幸の風土」

垣見 修司「妹の来た道—紀ノ川流域の万葉風土—」

廣岡 義隆「伊勢萬葉—その特質—」  
坂本 信幸「山城国の歌」  
関 隆 司「近江の風土—宇宙に名有る地なり—」  
佐藤 隆「尾張三河の万葉歌—古東海道の海路を中心に—」  
梶川 信行「東国—渡来系の開拓者たち—」  
影山 尚之「猪名川の沖を深めて」  
田中 夏陽子「筑紫島のまつろわぬ国—隼人の夜声・肥人の染木綿—」  
新谷 秀夫「風土圏『山陰』の実体」  
鈴木 景二「立山の雪・弥彦の歌」

15『美の万葉集』笠間書院 平成24年3月 歴史館直販¥2600 定価¥2940

坂本 信幸「万葉集の『美』について」  
岩下 武彦「『天離る夷』考—都の美と夷の情と—」  
近藤 信義「ことばの『美』—序説—用語「序」の発見をめぐる」  
新谷 秀夫「さびしからずや道を説く君—天平感宝元年の家持をめぐる—」  
井ノ口 史「女歌の美—大伴坂上郎女の言葉—」  
田中 夏陽子「藤波の美の誕生 大伴家持『布勢の水海』遊覧歌」  
関 隆 司「風土の美をうたう」  
垣見 修司「天象の美」  
森 朝 男「赤人・ことばの美的整齊」

別冊1『越中万葉をたどる』60首で知る大伴家持が見た、越の国。

笠間書院 平成25年3月

歴史館直販¥900 定価¥1000(税別)

越中ゆかりの万葉歌をたずねるすべての人へ。「越中万葉」とは、『万葉集』編纂に大きく関わった大伴家持が、越中守に任ぜられ、いまの富山県高岡市伏木にあった国庁に赴任し、越中国で詠んだ歌々を中心とした337首を称するもの。本書はそのうちの60首を精選し、やさしく紹介する。フルカラー印刷。

執筆は、坂本 信幸、新谷 秀夫、関 隆司、田中 夏陽子、垣見 修司、井ノ口 史。

他、年表●大伴家持の歌と足跡でたどる 越中万葉略年譜

地図●家持越中巡行推定図

高岡市万葉歴史館の紹介

高岡市万葉歴史館周辺地図

あり。

別冊 2 『越中万葉を楽しむ』 越中万葉かるた 100 首と選び方。

笠間書院 平成 26 年 3 月

歴史館直販 ¥ 900 定価 ¥ 1000 (税別)

『万葉集』から越中関連歌百首を選びかるた形式にした「越中万葉かるた」を、村閑歩氏の絵と、近藤芳竹氏の書とともに紹介。また、「越中万葉かるた」の世界をわかりやすく紹介するべく、かるた大会のことや遊び方も紹介。その他、高岡市万葉歴史館蔵の万葉かるた 10 種を紹介。

ルビを多く振り、立体的に歌の世界をイメージできるように試みました。執筆は、坂本信幸、新谷秀夫、関隆司、田中夏陽子、井ノ口史、垣見修司。